

分野別未来予想図のとりまとめ（産業振興分野）

1 審議会での主な意見

【既存事業・新規事業支援】

- ・毎日創業の気概をもって挑戦し続けている既存事業者が多い。
- ・墨田区らしさを作り上げてきた老舗企業へのサポートをきちんと行っていく。
- ・優しい出口相談も行っていくことが必要である。（企業の終活支援）
- ・伝統と革新のまじりあった、新しい事業展開、新たな時代・ニーズの流れに沿った仕事。
- ・墨田区は商業事業者が多く、区内にある商業力をどう活用できるかが大きなテーマになる。
- ・新しくチャレンジをしようと入ってくる方が、既存の資産をたくさん使える環境が墨田区にはあるところに一定の価値がある。
- ・暮らしやすい・利便性の高いアクセス環境の提供 ⇒ スタートアップとの親和性がある。
- ・ゼロから生まれるイチを既存事業者がつくり、ゼロから生まれたイチがサンと次に何かを作っていくことが発展、振興になる。
- ・既存事業者も含めて新しいことに挑戦するまちをつくる⇒活力、エネルギー、新たな賑わい
- ・新しい住民に生活環境としてものづくりの伝統のある地域であることの啓発も必要である。
- ・フロンティアすみだ塾卒業生が、地域へ還元する循環ができると良い。（セミナー開催など）

【商業振興】

- ・交通利便性が良く BtoB ビジネスをやる拠点を置くのに非常に良い。
- ・商店街の支援と商業の支援は別物。魅力ある個店が、集積するまちになるために、個店の魅力をどう引き伸ばしていけるかが大事である。
- ・日常使いの商業とハレの日需要に対する商業は分けて整理が必要である。
- ・付加価値をつけた商品、サービスを提供しているお店が結果的に残っていくと思われる。
- ・個店の店主とコミュニケーションがとれる下町の良さもある。
- ・商店街の集積、数値に表れない地元への貢献をしてくれている。（インフラ、防犯）

【共通】

- ・「ものづくり」の定義を明確にする。
- ・都市型でしかないものづくり。メイキングからクリエイティブとしてももの創りを考える。
- ・地産地商、墨田区で生まれたものを墨田区の人たちが使ってこそ、商品の良さも伝わる。
- ・住民を巻き込み、まち自体がものづくりを残す努力が必要である。（例えば、古くなった公の施設を、ものづくりの人達が集まれるような場所にする。）
- ・ものづくりのまちを考える上では、まちづくりの分野とも一緒に考える必要がある。
- ・PR 不足。プロモーション、メディア戦略を考えた方が良い。

2 産業振興分野における未来予想図

新たな価値を創出し続ける、活力にあふれるまち

製品の製造だけでなく、素材にひと手間をかけて価値を高める「すみだのものづくり」。ものづくりのまちとして培われてきた技術・技能を礎に、人と人とのつながりによる垣根を越えた連携を通じて、時代に合わせた多様なニーズに応える、新しい価値づくりに挑み続けています。事業者の活動を地域全体でサポートして、その価値を高め、広めていくとともに、誰もが自分らしく働き続けられるまちをめざします。

◆挑戦し続ける

時代の変化を捉えながら、産業構造の転換、技術の革新に適応していくことが、産業の活力につながります。ものづくりから消費に至るまで、既存事業者も新規創業者も、誰もがチャレンジできる環境をつくります。

◆価値を高め、広める

商品やサービスに込められた思い・背景を、すみだの魅力として地域ぐるみで発信することで、その価値を高め、広めていきます。商業が地域を盛り上げ、つながりの中で価値づくりの循環を生み出す、地産地商のまちをつくります。

◆自分らしく働くことができる

子育て中の人や高齢の方、障がいの有無や性別に関わらず、一人ひとりが自身の特性に合わせて働き方を選択でき、自分の能力を十分に発揮できるまちをつくります。

分野別未来予想図のとりまとめ（文化芸術・スポーツ分野）

1 審議会での主な意見

【文化・芸術振興】

- ・誰もが身近に触れられ、経験できることが大事。自分で感じたものは、その人のアイデンティティの一部になり、こどもの教育や人格形成にも文化芸術の果たす役割は大きい。
- ・芸術は精神的な心の支えや豊かさや活力を生み出すとともに、人々をつなげ、つながりを深める力があり、地域力を高めることにもつながる。
- ・守り続けるのではなく、成熟、熟度を増し続けられるような文化芸術振興をやることが重要。大衆に支持され続ける文化を振興していく。
- ・芸術エリアを定めて明確に色を付けることも良い。
色を付けた方が、観光や商業的にも親和性が高く、人も集まりやすい。
- ・墨田のこどもたちは学校でトリフォニーホールや北斎美術館に行ける環境があり、続けていくことが大事である。
- ・なぜ墨田区にこの文化があるか、区民もストーリー性を知っておけると良い。
（江戸からの文化、江戸以前からの文化（神社仏閣））
- ・四季を感じられる文化が多い。（桜祭り、花火、祭り、七福神巡り）
- ・新しく生まれる文化も続けていくことで、文化となり、人が集い、振興につながる。
- ・残すべき文化、新しい文化を知ること、どちらも大事である。次世代への継承。
- ・ベッドタウン化する中、区に興味の無い人たちを、取り残さず、いかに文化に触れられるようにできるか課題である。

【生涯学習・スポーツ】

- ・いつでも、どこでも、誰でも気軽に楽しめる。心も体も豊かで健康的な生活をし続けることができる環境づくり。（生涯学習・生涯スポーツ）
- ・ポッチャやボクシングイベントなどスポーツの魅力は増えたと感じる。
- ・スポーツに身近に触れることができるようなしつらえをまちとして準備していく。
- ・世代間のコミュニケーションにもつながる。
- ・色んな人と一緒にやるのが、健康寿命につながる。高齢化の問題と絡めて考える必要がある。
- ・リスクリング
- ・行政はイベント教室を提供することから、区民サークルの支援や繋ぎ合わせることにシフトできると良い。
- ・図書館や博物館が多く、学習が楽しめる環境にある。一方で、勉強している人もいて、図書館は憩いの場としては、ゆっくりできるような場ではないことは課題である。
- ・ひがしんアリーナ（錦糸町）、陸上競技場（鐘ヶ淵）。移動など南北で点が線になっていない。

2 文化芸術・スポーツ分野における未来予想図

多彩な魅力が豊かな心と地域の活力を育むまち

郷土の歴史・文化が受け継がれるとともに、北斎や隅田川、音楽などの地域資源を活用した新たな文化芸術活動や、自身の興味・関心に合わせたスポーツ活動が広がり、区民は心も身体も健やかな生活を送っています。誰もが身近に文化芸術に触れ、気軽にスポーツに親しめるまちをめざします。

◆伝統をつなぎ、新しい文化芸術を創造する

歴史の中で培われた伝統・文化を成熟させ、次の世代へとつないでいきます。区民が多彩な文化に触れて、見て、また、自ら表現できる機会をつくり、新しい文化・芸術が生まれる土壌を育みます。

◆生涯を通じて学び続ける、スポーツに親しむ

あらゆる人が生涯にわたって、自分の興味・関心・適性・状況に合わせて、真剣に、本気で取り組みたいという気持ちにも、何か新しいことをしてみたいという思いにも応えられる、生涯学習・生涯スポーツに親しめるまちをつくります。

◆新しい価値観を見つける

文化、芸術、スポーツは、世代を超えて、多様な背景を持つ人々をつなげて、新しい視点に気づき、価値観を創り出す力を持っています。分野を超えたつながりを深め、地域の活力とにぎわいをつくります。

分野別未来予想図のとりまとめ（観光・シティプロモーション分野）

1 審議会での主な意見

【観光】

- ・観光＝地域の魅力づくりをより高める、活性化につながる、幅広い事業者が関わる。
- ・歴史や文化、自然を含め、観光資源がたくさんある一方、逆に明確なイメージが湧かない。
- ・「江戸のまち」。江戸文化が組み合わさって、独特な下町文化が根付いているのではないかな。
- ・まち全体に歓迎してもらえ、雰囲気もまた来たいにつながる。区民がどのように訪れる人を歓迎していけるか、迎え入れる側も楽しんで迎えることが重要である。（ホスピタリティ）
- ・日常に息づく本物がテーマ（お相撲さんが街を歩いている光景等）
- ・一度は訪れたい街、一度訪れたら何度か訪れてみたい街、いつか住みたい憧れの街
- ・最終的に住んでいる方が住みづらくなるような街になってしまうと観光をやる意味が無い。
- ・観光をなぜやるのか、区民に観光の利点を伝える必要がある。
- ・テーマパークを参考にしたアプローチでまちづくりをする。（あったという目的の観光）
- ・点だけで売っていくのではなく、面としてすみだの魅力を出していく。
- ・他分野との連携や近隣区との広域連携が大事である。
- ・移動の便利さ（自転車マナー）
- ・都内で民泊は2番目、ゲストハウスやホテルは3番目に多い。
- ・観光客とコミュニケーションを取ったことがある人程、外国人のマナーが良いと評価が高く、傍目から見ているだけの人程マナーが悪いというアンケート結果（墨田区観光協会実施）
→住民と観光客がコミュニケーションをとれるまちづくりを積極的にやっていく。（交流）
- ・まちづくり、産業、防災と様々な分野が関わるので、セクションを超えて観光を考える。

【シティプロモーション】

- ・まちの魅力を自分たちで知ることがまず重要である。
自分の言葉で発信 ⇒ 伝わる⇒ 参加する ⇒ 輪が広がる
- ・次世代のこどもたちに墨田の魅力をどんどん発信して伝えていく必要がある。
- ・1番の口コミは友人、知人。墨田区を良く知る人が良いまちだよと発信してくれることが1番の情報発信元である。（すみだを愛する人、すみだマニア）
- ・行政は区民が知れるような情報発信や環境づくりをすることが大切である。
- ・今の墨田の様子、将来に向かったワクワク感が発信できるとシティプロモーションになる。
- ・住んでいる人、働いている人がプライド高くすみだを誇りに思ってもらえるようにするにはどうすれば良いかがシティプロモーションのポイント。
- ・日常的な当たり前の土台（住環境、防災、福祉）が大切で、そこがしっかりできていることがまちの愛着、シティプロモーションにつながる。

2 観光・シティプロモーション分野における未来予想図

何度でも訪れたい憧れのまち

国内外から多くの人がすみだを訪れることで、地域の経済が活性化し、新しいつながりが生まれ続けています。暮らす、働く人たちのすみだへの愛着と誇りが高まり、誰もが一度は訪れてみたい、一度来た人はまた来たい、そして、いつかは住んでみたい、憧れのまちになっています。

◆日常に息づく「本物」を魅せる

大相撲、花火、ものづくりなど、江戸を起源とする観光資源、すみだトリフォニーホールや東京スカイツリーなどの文化観光拠点に加え、地域のお祭りや豊かな水辺など、すみだの日常には多彩な魅力があふれています。様々な資源が連携し、重なり合うことで、まちの魅力を高めていきます。

◆笑顔をつかち合う

まちを挙げたあたたかい歓迎が「また来たい」につながります。すみだに暮らす、働く人たちが、訪れた人を笑顔で迎えることができるよう、相互の気づかい・思いやりを大切にしながら、楽しさを共有し、交流が生まれる環境づくりを進めます。

◆伝え合い、広げていく

より魅力的なすみだの実現は、暮らす、働く一人ひとりが、まちの良さを知るところから始まります。地域に関心に向け、自ら発信したくなるようなしくみづくりに取り組みます。

☆第1部会における基本目標

産業振興

新たな価値を創出し続ける、活力にあふれるまち

文化芸術・スポーツ

多彩な魅力が豊かな心と地域の活力を育むまち

観光・シティプロモーション

何度でも訪れたい憧れのまち



基本目標Ⅰ 価値づくりが進化する

価値づくりが進化する、時代の変化、その時々ニーズを捉え、アップデートし続けるまち。歴史や伝統を大切にしながらも、組織を超えて、分野を超えて、人と人とのつながりの中で、新しい価値を創り、まちの魅力を高める挑戦が広がるまちになっています。

すみだで働く人たちは、自分らしく働ける環境で、日々の仕事に働きがいを感じています。こどもも高齢者も、障がいの有無に関わらず、誰もが笑顔でスポーツに親しみ、文化芸術を楽しんでいます。まちのそこかしこに、気軽につながれる場がある、仲間がいる、すみだにぎわいと活力であふれ、そんな魅力に惹きつけられた多くの人たちがまちを訪れています。

分野別未来予想図のとりまとめ（福祉分野）

1 審議会での主な意見

【高齢者福祉】

- ・人生１００年時代の到来で、サード・エイジ（主にシニア層 達成の時代）の充実が大事である。
- ・認知症の人が数的に増えているという感覚が民生委員の中でもある。認知症になっても困らない社会、認知機能が低下しても安心して暮らせるまちづくりが必要である。
- ・必要なサービスに繋がるための適切な情報発信をきちんとしていく必要がある。
- ・若い世代と地域の高齢者との触れ合いが互いに苦とならない意識醸成が必要である。
- ・高齢者が活動できる場と活躍できる出番を創出していくことが重要である。
- ・デジタル技術を活用できる環境づくりを進めていくことが必要である。
- ・暦年齢より気持ちが若いことは大事な概念である。（主観年齢）

【障害者福祉】

- ・障害を正しく理解することが必要で、障害者との共存が当たり前の社会づくりに繋がる。
- ・保護者への支援が大事で、一時でもリフレッシュできる環境があると良い。
- ・発達障害者への適切なケア（就学時前からのケア含む）が必要である。

【地域福祉】

- ・支援者間のネットワークが構築されてくると、複合的な課題への対応につながる。
- ・気軽に集えるプラットフォームのような場所や小さな居場所をつくることが大事である。
- ・福祉職の人が誇りをもてる環境づくり。
- ・福祉を各分野に分けるのではなく、ごちゃ混ぜに考えて地域福祉を考えていく。
- ・一人ぼっちをなくす。
- ・すみだはおせっかいが得意で、誰とでも仲良くできるという面が活きてくる。
- ・場と出番があることが地域福祉につながる。
- ・元気な老人が見守りなどで地域の方とつながっていくのは良いことである。
- ・社会福祉協議会の取組等があまり知られていない。地域包括支援センター以外の相談窓口の周知も必要である。
- ・年代や属性（例えば高齢者、こども）で区切るのではなく、１人の人間を支える、個人として認識してみまもる体制が必要ではないか。

2 福祉分野における未来予想図

やさしいおせっかいが地域のしあわせを育むまち

人生１００年時代を迎え、一人ひとりが重ねてきた経験、抱えている課題も様々になっています。つながりの中で、誰もが自分らしくいられる居場所を地域の中で見つけ、正しい理解のもとに、他人のために行動することができる地域共生社会をめざします。

◆支え合い、助け合う

すべての人が心地よく過ごせるように、気軽に悩みを打ち明けることができ、また、優しく手を差し伸べることができる、困っている人を見つけた時に、ひとりぼっちにしない地域をつくります。

◆違いを超える

様々な心身の特性や考え方を持つすべての人が、相互に理解を深めるため、コミュニケーションをとり、支え合う、「心のバリアフリー」が体现されたまちをつくります。

◆自分らしさを大切にする

自分自身のことを理解し、大切にし、受け入れ、地域の一員として活躍しながら、できないことは周囲を頼り、住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けられるまちをつくりま

分野別未来予想図のとりまとめ（こども・子育て・教育分野）

1 審議会での主な意見

【こども・子育て】

- ・乳幼児期からの愛着形成が極めて重要である。
- ・こどもへの投資が社会全体にとってもリターンが大きい。
- ・体験格差のほか、親が与えすぎてこどもが考える機会が失われる教育虐待の課題もある。
- ・自然と触れ合える機会を提供する。
- ・こどもらしさを大切に、こどもの意思・意見を尊重することが重要である。
- ・乳幼児期から生きる力を育むことが大切である。
- ・自分の行動に対する責任、行動するための興味関心・探求心を地域の中で育む。
- ・全ての分野でこどもを念頭に置いた施策の展開を考えてほしい。
- ・親同士が繋がることのできる機会と場の創出、コーディネーターの育成が必要である。
- ・ライフ・ワーク・バランスの充実、子育てに対する意識の変化。
- ・すみだ保健子育て総合センターでの連携強化（行政内の連携）が不可欠である。

【教育】

- ・自己肯定感を伸ばす教育ができると良い。
- ・大舞台での活躍の場を提供するなど、夢を与えることのできる教育ができると良い。
- ・将来のビジョンをそれぞれが持てるよう、自分で考えられるような教育も大事である。
- ・学校内に居場所を作ることが重要である。（不登校対策）
- ・学校と地域の連携（コミュニティスクールの推進、時代に合った運営手法の検討など）
- ・こどもと大人がともに育つ、ともに育てる教育が実現できると良い。（保護者の学校教育への関わり、学校内でのこどもと高齢者の関わり）
- ・外国人、障害者、LGBTQ など、こども達が社会に出て色々な人に出会って、同じように接してあげられるような機会を小さいうちから提供できると良い。
- ・地域で出前授業を提供できる仕組みは良い。部活動でも外部人材の活用を。
- ・専門家による授業の実施。（学校医による健康教育など）
- ・福祉、地域、防災など他分野との連携が大事である。

【共通】

- ・企業や町工場は地域の子育て、教育に貢献したい気持ちをもっている。（商助の概念、企業の地域貢献）
- ・こどもの定義をきちんとしていく必要がある。（こども基本条例やこども計画の中で整理）
→こども基本法に合わせ、こどもを「心身の発達の過程にある人」と定義し、平仮名で表記。

2 こども・子育て・教育分野における未来予想図

こどもの可能性がひろがるまち

こどもは無限の可能性を秘めています。こどもたち自身が、将来に対して夢と希望を持ち、社会の一員として活躍する未来を具体的に思い描き、目標に向かって挑戦していくことができるよう、地域でこどもの健やかな育ちを支え、ともに成長していくことができるまちになっています。

◆こどもまんなか

未来を担うこどもたちが、暮らし続けたい、地域で活躍したいと思えるよう、その意見を尊重していきます。妊娠期から学齢期に至るまで、切れ目のない支援の中で、こども、若者が地域で伸び伸びと過ごし、健やかな心を育むことができる、こどもの最善の利益を優先するまちをつくります。

◆未来を切り拓く力を育てる

社会情勢が激しく変化する世の中では、自ら考え、行動できる力が求められます。防災・ものづくりや伝統文化など、地域の特色を活かした教育や、様々な機会、体験を通じて、こどもたちが意欲を持って学び、視野を広げ、課題を解決する力を身に付けていける環境をつくります。

◆ともに育つ

家庭や地域がつながりながら、あたたかくこどもの成長を見守り、支えることが、豊かな人間性や社会性を育みます。子育て、教育を通じて、保護者や地域もこどもとともに成長し、また、その成長を共感、喜び合える地域をつくります。

分野別未来予想図のとりまとめ（健康・保健衛生分野）

1 審議会での主な意見

【健康づくり】

- ・一番大切なことは良い生活習慣を心がけることだが、なかなか難しい。特に食事、運動。
- ・マイナス（悪い習慣）をなくす、プラス（良い習慣）をさらに増やすことが重要である。
- ・行動するための仕掛けづくりを考える。（無関心層へのアプローチ、健康ポイント）
- ・健康診断結果等、区民の健康づくりに上手くデータを利活用してほしい。（見える化）
- ・予防接種等に対する正しい知識を持つことが重要である。
- ・必要な情報へのアクセス、入手のしやすさ。（デジタルに弱い人への情報提供）
- ・任意接種ワクチンは費用面で、予防接種を打たない家庭がある。
- ・介護予防、認知症予防のための教室を通える場所につくる必要がある。
- ・顔見知りの関係だと安心できる→気軽に相談できる窓口があると良い。
熱中症対策で、薬局を涼み処として開放しており、薬剤師、栄養士とも気軽に話せる場である。
- ・こどもの健康づくり、栄養バランスの取れた学校給食をしっかりと提供してもらいたい。
- ・コロナ時のような健康危機管理体制の整備を平時のうちから整える。（災害医療訓練）
- ・専門家同士の連携、部署を超えた連携の強化が大事である。
- ・貢献寿命（人の役に立つと感じると寿命が延びる）がやさしいおせっかい寿命につながる。
- ・すみだ保健子育て総合センターに期待。

【地域包括ケアシステムの充実】

- ・地域包括支援センター、見守り相談室と機能が充実している。ニーズの増加に伴い、機能をどのように強化させていくかが今後の課題となってくる。
- ・医療機関と包括の関係は良好だが、まだ繋がっていない医療機関もある。
- ・地域づくり、仕組みづくり、意識づくりが重要。つなげる先のネットワーク、居場所をどのように作れるか。
- ・日常的な支援だけでなく、防災の視点で非常時の動きなど、きちんと検討しておく必要がある。
- ・今介護の必要がない人が地域包括にどのように関わっていくべきか。支援体制に若い力（人）をどのように取り入れられるかが重要である。
- ・こどもが地域の高齢者を見守る。（見守られて育った子が見守る側になる）
- ・相談窓口のアクセス、相談のしやすさが大切である。
- ・地域包括支援センター、見守り相談室を知らない方も多く、更なる認知度の向上が必要である。
- ・コロナ禍を経て民生委員訪問活動に対する新旧民生委員間の認識の壁が生じている。
- ・高齢の知的障害者への対応について、ケアマネジャー、相談員、ケースワーカーの連携が必要。
- ・独り身の高齢者の増加（2040年問題）、終末期のサービス整備も重要である。（死後事務など）

2 健康・保健衛生分野における未来予想図

ずっと健康でいられるまち

健康に関する情報が分かりやすく提供され、気軽に参加できる場があることで、誰もが積極的に健康づくりに取り組んでいます。医療・福祉・地域・行政などのつながりの充実により、一人ひとりの年齢や特性に合った適切な支援を受けられる環境が整い、生涯にわたって健康で暮らし続けられるまちになっています。

◆正しい知識が健康を支える

健康長寿の実現には、健康に関心を向け、正しい知識を持ち、良い生活習慣を心がけることが重要です。最初の一步の後押しをするとともに、個人でも、グループでも、ニーズに合わせて楽しく健康づくりに取り組めるまちをつくります。

◆安心して相談できる

こころや身体の悩みを相談するには、相談相手に対する信頼や安心が不可欠です。地域の中での相談しやすい関係づくりや、内容に応じて適切な相談先へとつながるしくみづくりを進めます。

◆連携を深め、環境を整える

食品衛生や環境衛生水準の維持・向上を図り、保健衛生における安全と安心を確保します。また、普段から、関係者の連携を深め、いざという時に区民のいのちと健康を守る体制をつくります。

☆第2部会における基本目標

福祉

やさしいおせっかいが地域のしあわせを育むまち

こども・子育て・教育

こどもの可能性がひろがるまち

健康・保健衛生

ずっと健康でいられるまち



基本目標Ⅱ おせっかいがめぐる

おせっかいがめぐる、時代が移り変わっても、人の温もりとやさしさにあふれたまち。困っているご近所さんを気かけ、力になりたいと思う気持ちで、相手に寄り添って行動する、そんなおせっかいがまち全体に広がり、助けてもらった人がいつかは助ける側になる、そんなやさしさがめぐるまちになっています。

こどもたちは地域全体にあたたかく見守られながら、豊かな人間性と社会性を身に着け、健やかに成長しています。区民一人ひとりが自分の健康を意識して、楽しみながら、こころと身体健康づくりに取り組んでいます。自分らしくいられる場と、力を活かせる出番があることで、誰もが自分の居場所をすみだの中で見つけています。

分野別未来予想図のとりまとめ（地域活動・防災防犯分野）

1 審議会での主な意見

【地域活動】

- ・地域地縁の力が強い一方、敷居の高さという問題があるため、新しいゆりく繋がれる場所づくりが必要である。
- ・コミュニティづくりの3段階。（マッチング→ネットワーキング→シェアリング）
- ・町会の高齢化や担い手不足により、子ども会、PTA、学校、保育園などとの連携が大事である。
- ・部分的なコミュニティの重なりは豊かである。（地域、防災、福祉、子育て、まちづくり等）
- ・防災コミュニティを日常のコミュニティにかぶせるという視点は大事である。
- ・コミュニティと教育の親和性（職人など墨田らしい人材を育む、こどもの地域活動への関わり）
- ・企業、学校を核としたコミュニティづくり。
- ・デジタルコミュニティや外国人との共生は課題である。（言語、民泊等の問題）
- ・大学や地域団体との連携により、エリアの価値やアイデンティティを高めていく。
- ・事業者がマンションを建てたくなるようなきれいなまちをつくることは、地域の努力のほか、事業者の町会への協力に繋がる。
- ・年末の火の用心などの町会活動は風情や地域のつながりを感じ取れる。
- ・盆踊りという一つのテーマがこども、大人、高齢者など色々な人を結びつけるきっかけとなる。

【防災・防犯】

- ・木密地域は都市計画的な手法で解消していく必要がある。
- ・高齢社会を踏まえた要配慮者対応など、防災福祉コミュニティを考えていく必要がある。
- ・災害時の対応を平時から考える。（受援体制、共助のあり方、情報発信、官民連携）
- ・日常と災害を結びつける、色々な形の繋がり方を普段から作っておくことが大事である。
→色々な変わり身ができるようなコミュニティ。
- ・防災も防犯も正しく恐れること、理解を深めることが大事である。
- ・こどもへの防災リテラシー教育も必要である。（こどもから祖父母への働きかけにもつながる）
- ・災害直後の防犯対策は大変。コミュニティの力、若い人の力をどう活用していけるかがキー。
- ・隣近所にどういう人が住んでいるのか分からない、地域に対する無関心が生じてきている。
家賃が安い、利便性が良いという価値判断で居住している人が増えている社会の流れの中で、防災対策やコミュニティづくりをいかにして進めるか考える必要がある。
- ・高齢者とこどもの接点をいかに繋げるか。普段は高齢者がこどもを見守り、いざというときは高齢者を助けることができるようにする。（墨田区は児童館が充実している。）
- ・気軽に人が話しかける、誰でも声を掛け合うという墨田らしさの基本的な行動の中に、防災や犯罪を防ぐヒントがあると思うし、これから先も残ってほしい。

2 地域活動、防災・防犯分野（コミュニティ）における未来予想図

多彩なつながりが地域の力を生み出すまち

デジタル技術の社会実装や国際化がさらに進展し、コミュニティのあり方も多様化していきます。既存のコミュニティと新しいコミュニティがゆるやかに重なり合いながら、人々とのつながりを深め、地域の風情を守りつつ、課題に向き合い、解決していくまちをめざします。

◆つながりを重ねて、広げる

地縁・学校・趣味・防災・福祉、すみだには人とつながるきっかけがたくさんあります。コミュニティ活動の重要性、担っている人々の努力を理解し、また、新たに参加する人の不安を受け止め、互いに壁を取り払いながら、様々な分野の交流の輪が重なり、広がっていくしくみをつくりまします。

◆みんなで守る

正しく防災や防犯への理解を深め、下町らしい人と人との関わり合いの中で、いざという時は地域が一丸となって助け合える、自助・共助・公助の連携による、安全で安心なまちをつくりまします。

◆認め合い、調和する

年齢や性別、障がいの有無、人種や国籍を超えて、互いの違いを認め合い、相手のことを尊重し、思いやりながら、穏やかな平和の中で、ともに暮らせる地域をつくりまします。

分野別未来予想図のとりまとめ（景観、水辺空間分野）

1 審議会での主な意見

【景観・水辺の活用】

- ・ゴミ出しや子どもたちが集団登校で学校に行く風景など、普通の暮らしの中に見えてくる風景が景観。景観は暮らしを包み込み、防災防犯やコミュニティの問題など、ソフトに繋がって重なっている。気負った景観づくりではなく、混在しているところがまちの活力になっている。
- ・色んな色が交じり合って、それが共鳴するような景観。
- ・若い世代の空き家を活用した活動などが流行っており、景観的にも古いものと新しいものの融合があった方がよい。
- ・昔は水辺が生活に身近にあったが、昔の水辺空間を再生して新たな景観ができないか。
- ・水辺が人と人の交流が持てる場になると良い。
- ・ウォーカブルなまちづくり、歩いていて面白いまちをつくる。
- ・川沿いの歩道はウォーキングに適しており、健康促進へ活用できると良い。
- ・お年寄りや子どもも気軽に行ける公園や水辺づくり。（旧中川水辺公園や大横川親水公園）
- ・水辺や緑があって、写真が撮ってみたいと思えるような空間・場所を作れると良い。
いざというときは防災に使うが、日頃はこどもの遊び場や写真映えするような水辺空間づくりのように、防災、緑、水辺もつながって立ち上がるものがすみだらしい。
- ・水辺が愛着や安心感を感じられるような環境になると良い。
- ・路地園芸や農園などを通して子どもたちの教育の場所をつくる。
- ・すみだらしさの江戸情緒を残したい。

【環境】

- ・脱炭素に向けて取り組んでいく必要がある。
- ・墨田＝雨水というくらい有名になってきている。雨水の文化をもっと育てていきたい。
- ・利用まで考えた雨水など雨水先進都市としてのインセンティブについて都や下水道局と連携して考えていけると良い。
- ・フラットな地形を利用した、できるだけ車に頼らない生活とコミュニティバスの活用。
- ・熱中症対策のクーリングシェルター整備が地域でのコミュニケーション増加にもつながる。
- ・廃プラスチック回収の取組は素晴らしい、今後も推進するべきである。
- ・区民も環境をもっと守るという意識をもってほしい。子どもへの環境教育も必要である。
- ・地域内のエネルギーの自給率を高める。→防災にもつながる。

2 景観、水辺空間分野（まちなみ、自然環境）における未来予想図

日常に心地よさを感じられるまち

普段の暮らしにおいても、豊かな水辺や江戸情緒を感じられ、地域で活動する人々のふるまいも含め、心地よく過ごせる風景が生まれています。大切な地球環境を次世代に引き継ぐため、区民や事業者が、環境との共生を意識して、できることに取り組むまちをめざします。

◆日常を包み込む景色をつくる

工場と住宅、新しいものと古いものなど、多様な色が共存し、混ざり合う中で、人々の普段の暮らしまでもがやさしく包み込まれるような、心に残るまちなみをつくります。

◆水、緑や花が暮らしに寄り添う

水辺と公園・まちがつながり、子どもも高齢者も、誰もが身近に水、緑や花に親しめる環境をつくります。日常に彩りを感じながら、楽しく遊び、穏やかに過ごせる場をつくるとともに、たくさんの人が訪れ、交流が生まれるまちをつくります。

◆環境にやさしい循環がある

区民も事業者も、一人ひとりの小さな行動の積み重ねが環境に影響を与えます。ゴミの分別、雨水の利活用、再生可能エネルギーの使用など、地域全体で環境にやさしい循環が広がるしくみをつくります。

分野別未来予想図のとりまとめ（まちづくり・都市基盤分野）

1 審議会での主な意見

【まちづくり】

- ・墨田区はこれまで沿道の不燃化や木密地域の不燃化・耐震化促進に取り組んできた。
- ・被災からの回復力（レジリエンス）は今後の課題で、色々な支えあいが重要である。
- ・これまで住んできた人が住み続けられるバランスのとれた開発を進めていく必要がある。
- ・どの世代も快適に住めるまち、防災・防犯、安全が確保され、生活しやすいことが大切である。
- ・コンパクトなまちづくり（近い、便利、災害に強い）。混在がまちの特徴。
- ・墨田区は場所によってそれぞれキャラクターがあるが、共通して商店や学校、病院などが電車や車での移動が不要なところにあることは、この先10年を考えても良いことである。
- ・伝統的な企業が多くある一方、スタートアップ企業も生まれており、学生や若者支援など連携を通して産業が活性化するまちづくりが実現できると良い。
- ・人情のまち、長屋文化のまちという墨田区のステレオタイプのイメージは外から見たものであり、中の町会としては若い世代が住み、子どもが増えることは防災力があがるという点で良い。
- ・まちづくりは何かを考えるとハードな道路整備や再開発だけの時代ではない。
ソフトなコミュニティをどのように作るか考える必要がある。（コミュニティの重なり）
- ・ゆるくいつも誰かが集まっている場所づくり（町会会館の活用）。サードプレイスの確保。
- ・お祭りは近隣町会との風通しが良くなるため効果がある。（合同防災訓練の実施につながる等）
- ・教育とまちづくり、ひとづくりがもう少し密に近づくとうまい。
- ・まちは人があって成り立つ。高齢者になると遠慮して人に頼めないような状況にある方もいるため、声かけられるようなつながりを作りだせると良い。
- ・いいアイデアを社会実験しながらまちづくりを進めていく。

【都市基盤】

- ・（コミュニティ）バス路線をどのように作るかが重要。（南北の移動、高齢者のアクセス環境）
- ・自転車走りやすいまち、歩いて楽しいまちにしていきたい。
（自転車、電動キックボードのマナー啓発、バリアフリー化、無電柱化）
- ・路地は街の隅々まで人の目が行き届き防犯面でも良く、墨田らしさがあるため残したい。
- ・高齢者がまちを歩いているときにふっと座れる場所があると良い。
- ・速達性と回遊性のバランスが取れたまちづくり（自動運転、ウォークステーション）
- ・道路景観の向上につながる活動をやることで区民の幸福度につながる。
- ・ボール遊びができる公園を整備する。
- ・防災拠点となる東白鬚公園の活用をもっとPRした方がよい。（防災に強い樹木、消火用水）
- ・路地園芸を商店街で行えないか。食べられるような緑をどんどん作っていく。

2 まちづくり・都市基盤分野における未来予想図

安全と楽しさが両立するまち

人々のいのちを守る、災害に強く、復元力が高いまちが整備され、誰もが安心して暮らしています。区内それぞれのエリアごとの個性を際立たせながら、職・住・学・遊の様々な都市機能が調和して、ライフスタイルに合わせて自由に楽しめるまちになっています。

◆安全に安心して暮らせる

すべての人が協力して、様々な手法を活用しながら、建物の不燃化や耐震化、避難場所の確保等に取り組み、地震・火災・水害など、あらゆる災害からいのちが守られ、早期に復旧・復興できるまちをつくれます。

◆個性があって住みやすい

それぞれの地域ごとの成り立ちや個性を活かし、町工場や商店、住宅などが、混在しながら調和できる環境をつくれます。暮らしに欠かせない様々な都市機能が身近にあり、利便性が高く、あらゆる世代が暮らしやすく、長く住み続けられるまちをつくれます。

◆移動が快適で楽しい

様々な移動手段に応じた適切な環境が整備され、子育て世帯も高齢者、障がい者も、誰もが自由・安全に移動できるまちをめざします。歩いて楽しい、まちなかで交流が生まれる、歩きたくなるまちづくりを進めます。

☆第3部会における基本目標

コミュニティ

多彩なつながりが地域の力を生み出すまち

まちなみ・自然環境

日常に心地よさを感じられるまち

まちづくり・都市基盤

安全と楽しさが両立するまち



基本目標Ⅲ 心地よい安全がある

心地よい安全がある、災害などの危険に備えつつ、楽しく暮らせる利便性の高いまち。愛着を感じられる個性あるまちなみの中で、あいさつを交わす声が聞こえ、何かがあった時には声を掛け合える、安心感を抱きながら、穏やかな日々が流れる、居心地のいいまちになっています。

心にやすらぎを感じられる風景づくりが進み、水辺を散策しながら、みどりや花に触れるなど、誰もがまち歩きを楽しんでいます。災害や犯罪など、いざという時にも、ともに助け合い、いのちが守られる環境が整い、区民は安心して暮らしています。多彩なコミュニティの重なりが、すみだの地域力をさらに高めています。